【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第７部門第３区分
【発行日】平成26年12月11日(2014.12.11)

【公開番号】特開2013-98590(P2013-98590A)
【公開日】平成25年5月20日(2013.5.20)
【年通号数】公開・登録公報2013-025
【出願番号】特願2011-236480(P2011-236480)
【国際特許分類】
Ｈ０４Ｎ　5/238　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ　5/232　(2006.01)
Ｇ０３Ｂ　11/00　(2006.01)
Ｈ０４Ｎ 101/00　(2006.01)
【ＦＩ】
Ｈ０４Ｎ　5/238　Ｚ
Ｈ０４Ｎ　5/232　Ｚ
Ｇ０３Ｂ　11/00
Ｈ０４Ｎ 101:00

【手続補正書】
【提出日】平成26年10月23日(2014.10.23)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】全文
【補正方法】変更
【補正の内容】
【特許請求の範囲】
【請求項１】
撮像素子と、
前記撮像素子が出力する画像信号のブラックバランスを調整するための補正値を、前記撮像素子の出力する画像信号に基づく評価値と予め定めた黒の基準値とに基づいて算出する算出手段と、
前記撮像素子への入射光量を減少させる減光部材を制御し、当該減光部材による入射光量の減光率を制御する制御手段と、を有する撮像装置であって、
前記算出手段は、前記減光率が最大でない状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする撮像装置。
【請求項２】
前記減光部材が光学フィルタを含み、
前記算出手段は、前記光学フィルタが光路から退避された状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が前記予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする請求項１記載の撮像装置。
【請求項３】
前記減光部材が絞りを含み、
前記算出手段は、前記絞りが特定の状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が前記予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする請求項１記載の撮像装置。
【請求項４】
前記減光部材が光学フィルタ及び絞りを含み、
前記制御手段は、少なくとも前記光学フィルタを光路から退避させた状態か、前記絞り

が特定の状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が前記予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする請求項１記載の撮像装置。
【請求項５】
前記特定の状態が、開放の状態であることを特徴とする請求項３または４に記載の撮像装置。
【請求項６】
さらに、前記撮像素子への入射光の遮断・非遮断を前記制御手段により制御可能な遮光手段を有し、
前記算出手段は、前記遮光手段を遮光状態とし、前記減光部材による入射光量の減光率が最大でない状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が前記予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする請求項１乃至請求項４のいずれか１項に記載の撮像装置。
【請求項７】
撮像素子と、
前記撮像素子が出力する画像信号のブラックバランスを調整するための補正値を、前記撮像素子の出力する画像信号に基づく評価値と予め定めた黒の基準値とに基づいて算出する算出手段と、
前記撮像素子への入射光量を減少させる減光部材を制御し、当該減光部材による入射光量の減光率を制御する制御手段と、を有する撮像装置の制御方法であって、
前記制御手段が、前記減光部材を、前記減光率が最大でない状態に制御する工程と、
前記制御手段が、前記減光部材を前記減光率が最大でない状態に制御した状態で前記撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が予め定められた閾値以下か否かを判定する工程と、
前記算出手段が、前記輝度値が前記予め定められた閾値以下であると判定された場合に、前記補正値の算出を行う工程と、を有することを特徴とする撮像装置の制御方法。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００９
【補正方法】変更
【補正の内容】
【０００９】
上述の目的は、撮像素子と、撮像素子が出力する画像信号のブラックバランスを調整するための補正値を、撮像素子の出力する画像信号に基づく評価値と予め定めた黒の基準値とに基づいて算出する算出手段と、撮像素子への入射光量を減少させる減光部材を制御し、当該減光部材による入射光量の減光率を制御する制御手段と、を有する撮像装置であって、算出手段は、前記減光率が最大でない状態で撮像素子から出力される画像信号に基づく輝度値が予め定められた閾値以下である場合に、前記補正値の算出を行うことを特徴とする撮像装置によって達成される。